

1995⇄2025⇄

KO_2 Natural Powered Garden Project (ドローイング) 2006 インク、水彩・紙 25.0×35.2 cm 個人蔵 —	KO_10 Typical Biosphere (『國府理 相対温室』展覧会のためのドローイング) 2014 インク、水彩・紙 35.2×25.0 cm 個人蔵 —
KO_3 Rainforest Car 概略図(《雨林車》プランスケッチ) 2007 インク、鉛筆・紙 21.0×29.7 cm 個人蔵 —	KO_11 相対温室(展示ブランドローイング) 2014 インク、鉛筆・紙 29.7×21.0 cm 個人蔵 —
KO_4 虹の高地(ドローイング2) 2006 インク、水彩・紙 32.0×33.3 cm 個人蔵 —	KO_12 『國府理展 相対温室』—全体プラン— (展示ブランドローイング) 2014 インク、鉛筆・紙 21.0×29.7 cm 個人蔵 —
KO_5 ROBO Whale(ドローイング1) 2009 インク、水彩・紙 32.5×41.5 cm 個人蔵 —	KO_13 「未来のいえ」ドローイング —水中エンジン— 2013 インク、紙 29.7×21.0 cm 個人蔵(兵庫県立美術館寄託) —
KO_6 Typical Biosphere(ドローイング) 2009 インク、鉛筆・紙 20.5×29.5 cm 個人蔵 —	KO_14 水中エンジン (あいちトリエンナーレ2013 での展示ブランドローイング) 2013 インク、鉛筆・紙 21.0×29.7 cm 個人蔵(兵庫県立美術館寄託) —
KO_7 舟島(ドローイング) 2009 インク、鉛筆・紙 20.5×29.5 cm 個人蔵 —	KO_15 水中エンジン (あいちトリエンナーレ2013 での展示ブランドローイング) 2013 インク、鉛筆・紙 21.0×29.7 cm 個人蔵(兵庫県立美術館寄託) —
KO_8 てっぺんの庭(ドローイング) 2009 インク、鉛筆・紙 29.5×20.5 cm 手塚さや香 氏蔵 —	KO_16 《水中エンジン》関連資料一式 2012-2017 自動車のエンジン(2017 年再制作)、鉄他 240.0×130.0×130.0 cm 個人蔵(兵庫県立美術館寄託) —
KO_9 Parabolic Gardenの旅 2011 インク、鉛筆・紙 21.0×29.7 cm 個人蔵	参考映像 國府理、シュヴァーブ・トム 水中エンジン 2012 シングルチャンネル・ビデオ 8分24秒

森山未来、梅田哲也

MM, UT_1 浮標 2024 — 〈電話作品〉 電話機、電話台、声 声:秋田乃梨子、石山樹野、慈泰雄、慈憲一、金山正熙、角本稔、西村周治、松下麻理、 水上秀一、山本豊久、 森山未来 — 〈光の庭〉 ガラス玉、水、ラジオ、電波、声 声:森山未来 — 〈回廊〉 回廊、ロールスクリーン、ホーン、バケツ、スピーカー、モーター、環境音(2014~現在までの録音による)、 声 声:森山未来、ジェット機、汽笛、水、他 技術協力:新美太基 — 〈大階段下〉 アンプ、スピーカー、環境音 演奏:神戸市混声合唱団、 神戸市室内管弦楽団(練習風景より)
制作:松田雅代

会場マップ・出品作品リスト

Map of the venue / List of Works

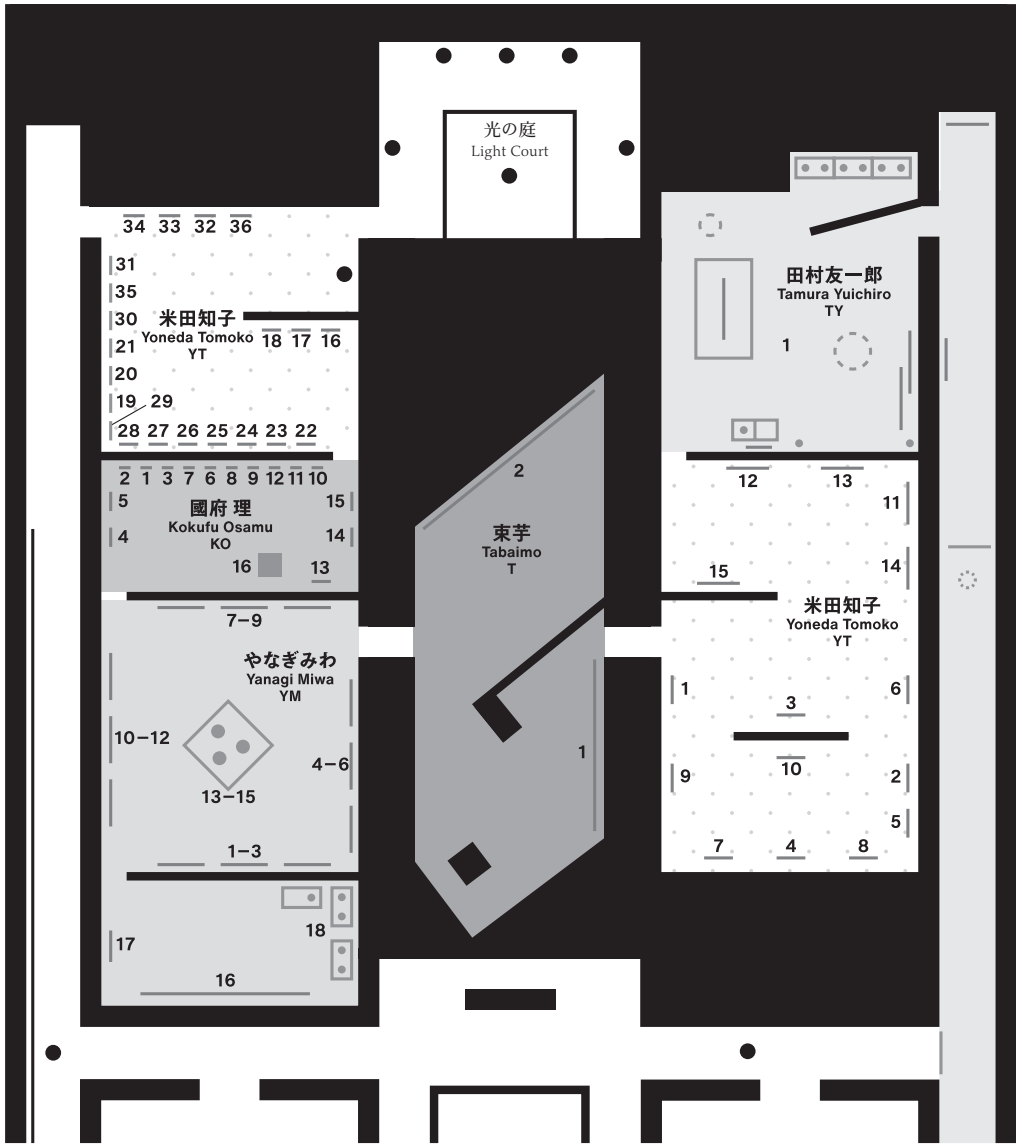
3F 企画展示室

3F Temporary
Exhibition
Gallery Floor

森山未来、梅田哲也
Moriyama Mirai,
Umeda Tetsuya
MM, UT

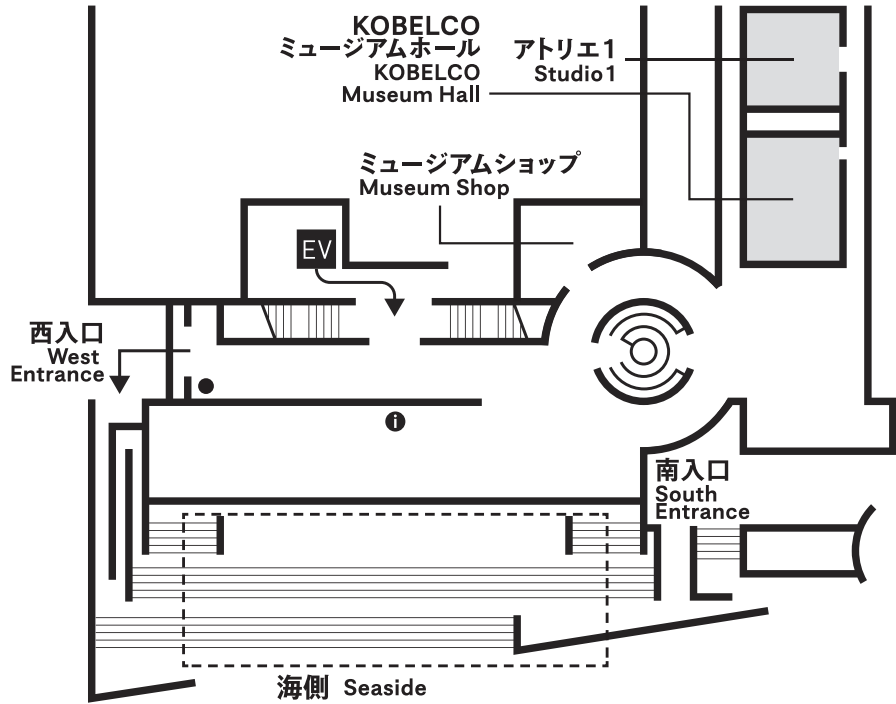
展示室内外の各所に点在。
「●」「----」で示した。
Their works are scattered
across various locations
inside and outside the
exhibition room, indicated
on the map with
“●” and “----”.

凡例
・各作品情報は作家ごとに、出品番号、作品名、制作年、技法と素材、
サイズ(高さ×幅×奥行き／映像作品の場合は尺)、所蔵先、の順に記載した。
・サイズ可変の場合、作家蔵の場合は、それぞれの表記を省略した。
・加えて必要な場合には各種クレジットを含めた。
・参考展示資料等、および会場でもQRコードを掲示した参考映像の情報についても記載した。



1F・屋外

1F and outside



1995⇄2025⇄1995⇄2025⇄

田村友一郎

TY_1
高波
2024
ターボリン製の揚幕、コンクリート製の盆栽、窓と盆栽のイラスト、スコアボード、青空と雲の壁紙、コンクリート製の窓ガラス、1995年オリックス・ブルーウェーブ優勝時のイチローのサインボール、ベルトパーテーション、再度山の枯松が印刷された4色の窓ガラス、BOSE モジュール式アレイスピーカー、イチローのサインの波形から生成された音、ビル・ゲイツの声から生成された音、箏、アルミフレーム、AGC株式会社製の板ガラス、扇風機、オフィスチェア、オフィスデスク、書類箱、電話機、NEC PC-9821、JAPAN KOBE ZERO《TREE, out-in-out》制作記録映像（提供:榎忠）、能面の画像、老夫婦の土人形、池田満寿夫《窓に向かって泳ぐ》（1969年、リトグラフ・紙、兵庫県立美術館蔵）、4通のEメール文書
構成：田村友一郎
映像・技術：高野諭
サウンドデザイン：荒木優光
イラストレーション：瀬古亮河
シルクスクリーン：大野紅、石田典子
グラフィックデザイン：ym design（見増勇介、鈴木菜弓）
制作：ミラクルファクトリー（青木一将、谷薫、高橋和広、倉橋絃）
協力：AGC 株式会社、JAPAN KOBE ZERO、神戸新聞社、名古屋芸術大学、岡本好太郎、下江渚、榎忠、池内美絵、飯川雄大、水野大輝、林汰一、加納俊輔、太田美波
—
参考展示
『**高砂**』謠本
日本の伝統的な古典芸能である「能」は、「猿楽（曲芸、物まね、寸劇、滑稽芸などの雑芸）」などを前身として、室町時代に観阿弥、世阿弥によって発展した。能面を被り、神や精霊、鬼など、この世のものならざる役を演じる「シテ（主役）」と、旅の僧や神官、武士など、人間側の存在として物語に関与する「ワキ（相手役）」の二人を中心にして演じられるのが特徴で、人間と超自然的存在の間での感情や対話が表現されることが多い。
「高砂」という演目は、九州阿蘇宮の神主友成が旅の途中で立ち寄った「高砂の浦」にて老夫婦に出会う物語である。長い時間や調和について語った老夫婦が、最後に自分達が高砂と住吉の松の精であることを打ち明け、小舟に乗り風をはらんで消えて行く。残された友成の一行は、老夫婦の後を追って住吉へと向かうのであった。
—
AGC株式会社（旧・旭硝子株式会社）記録写真
関西工場　尼崎事業所、高砂事業所
AGC株式会社（旧・旭硝子株式会社）は、1907年創業の総合素材メーカー。日本で初めて板ガラスの工業生産を開始し、建物や車に使用される窓ガラスをはじめ、ブラウン管用ガラスバルブなども製造してきた。現在、尼崎事業所では主にテレビやパソコン、スマートフォンなどのディスプレイ用ガラスが製造されている。

兵庫県内では創業の地である尼崎市のほか、能の演目「高砂」の舞台としても有名な高砂市にも工場がある。現在、高砂事業所では先進的なガラス製品のみならず、セラミックスや半導体製造装置用の材料などが造られている。
（画像提供:AGC株式会社）
—
The Internet Tidal Wave 原文
（出典:アメリカ合衆国司法省ウェブサイト）
Microsoft Windows 95 Upgrade
（日本語版 CD-ROM）
1995年5月26日、当時マイクロソフト社のCEOだったビル・ゲイツは「The Internet Tidal Wave（インターネットの高潮/津波）」と題した9ページに及ぶメッセージを主要な部下たちに送付した。これはインターネットの課題や可能性を示し、過去20年の振り返りから以後20年の通信コミュニケーションの飛躍的な発展を予見するものであった。
そして同年8月に「Windows 95」および「Internet Explorer 1.0」が発表され、11月には日本語版「Windows 95」が販売開始。日本社会においてパソコンという存在が広く普及する契機となった。コマンドを打ち込まずともボタンをクリックするだけで操作環境が立ち上がり、専門家でなくとも誰でも簡単にインターネットに接続できるようになったのである。ビル・ゲイツの言葉の通り、それは以後の現代社会を大きく変える革命的な出来事であった。
—
オリックス・ブルーウェーブ時代のイチローのレプリカサインボール
1995年5月26日、神戸市を本拠地としていたオリックス・ブルーウェーブ（大阪近鉄バファローズと統合し、現在はオリックス・バファローズに改名）は、西武球場で西武ライオンズ相手に4対3で勝利した。翌月にはついに西武ライオンズから首位の座を奪い、2位以下を突き放して独走する。
そして同年9月19日、若き日のイチローを擁し、仰木彬監督が率いたオリックス・ブルーウェーブは、「がんばろうKOBE」のワッペンを腕に、西武球場で西武ライオンズ相手に再び勝利を収めた。阪急ブレーブス時代以来11年ぶり、ブルーウェーブとしては初のパ・リーグ優勝を成し遂げたのである。残念ながらその後、日本シリーズで敗れてはしまったものの、翌年にはリーグ2連覇を達成、そして初の日本一に輝くこととなる。
—
『**神戸新聞**』**1995年1月17日朝刊紙面**
1995年1月17日、午前5時46分に兵庫県南部地震が発生する直前に配達された朝刊。本資料は、神戸新聞社に1部残されていたものである。
神戸新聞は1898年創刊。1918年8月12日の米騒動、1945年3月17日の神戸大空襲により二度本社を焼失するも、関連会社などの協力を得ながら無休刊で発行を続けてきた。阪神・淡路大震災ではJR三ノ宮駅前にあった神戸新聞会館が被災、紙面制作システムは壊滅し、本社ビルは全壊した。しかし、前年に京都新聞社と結んでいた緊急事態発生時における新聞発行援助協定によって、休刊の危機を再び乗り越える。インターネットが一般に普及していない時代において、発生当日の夕刊から非常体制で未曾有の大震災の状況を報道し続けた。
（提供:神戸新聞社）

JAPAN KOBE ZERO《TREE, out-in-out》制作記録写真
JAPAN KOBE ZERO は、兵庫県立近代美術館（現・原田の森ギャラリー）の開館年でもある1970年に、古川清をリーダーとして、榎忠、松井憲作たちによって結成された神戸の前衛的な美術グループ。街中での大規模なパフォーマンスをはじめ、美術の枠を破るような様々な活動を行った。
1975年、兵庫県立近代美術館で開催された展覧会「アート・ナウ'75」に大掛かりなインスタレーション作品《TREE, out-in-out》を出展。六甲山地西部に位置する再度山（ふたたびさん）で伐採した枯松を、美術館の窓を外して運び込み、1階のピロティ、2階の展示室、そして屋上に 3 分割して展示した。
（提供:榎忠）
米田知子
YT_1-10
震災から10年
1995
ゼラチンシルバープリント
各37.0×37.0 cm
国立国際美術館蔵
—
YT_1
神戸市役所、三宮
—
YT_2
花、長田
—
YT_3
震源地、淡路島
—
YT_4
靴底、長田
YT_5
商店街、長田
—
YT_6
写真、灘
—
YT_7
レコード、灘
—
YT_8
引き出しとクスリ、元町
—
YT_9
西洋窓、北野
—
YT_10
瓦礫、須磨
—
YT_11-15
震災から10年
2004
発色現像方式印画
各101.0×120.0 cm
国立国際美術館蔵

YT_11
空地Ⅰー市内最大の仮設住宅跡地から震災復興住宅をのぞむ
—
YT_12
空地Ⅱー市内最大の被害を受けた地域
—
YT_13
空地Ⅲー市内でも被害の大きかった地域
—
YT_14
教室Ⅰー遺体仮安置所をへて、震災資料室として使われていた
—
YT_15
川ー両サイドに仮設住宅跡地、中央奥に震災復興住宅をのぞむ
—
YT_16-36
予感
2024
発色現像方式印画
各38.3×30.0 cm
—
YT_16
明石の月
—
YT_17
30年目、梨沙子と
—
YT_18
出航、明石港
—
YT_19
夜桜Ⅱ
—
YT_20
30年目の春、照強さん
—
YT_21
突然現れた鹿、淡路島
—
YT_22
夜桜Ⅰ
—
YT_23
30年目の私たち
—
YT_24
松風
—
YT_25
断層の模型
—
YT_26
保存された野島断層
—
YT_27
30年目の中村さん
—
YT_28
戦災・震災にあった長田・神戸の壁

YT_29
神戸の夜景、摩耶山から望むⅠ
—
YT_30
30年目の金原さん
—
YT_31
もうすぐ一歳
—
YT_32
ダリア・インベリアス
—
YT_33
30年目の秋、照強さん
—
YT_34
思い出、須磨浦公園
—
YT_35
神戸の夜景、摩耶山から望むⅡ
—
YT_36
たそがれの淡路島

束芋

T_1
神戸の学校
2024
映像インスタレーション
2分52秒（ループ）
—
T_2
神戸の家
2024
映像インスタレーション
4分37秒（ループ）

やなぎみわ

YM_1-12
女神と男神が桃の木の下で別れる
2016-17
発色現像方式印画
各285.0×160.0 cm
協力：あべき邸（福島市）、かんだファーム（福島市）、太田果樹園（福島市）、まるせい果樹園（福島市）、荒木康子
—
YM_1-3
川中島Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
2016
—
YM_4-6
あかつきⅠ、Ⅱ、Ⅲ
2017
—
YM_7-9
まどかⅠ、Ⅱ、Ⅲ
2017
—
YM_10-12
きららⅠ、Ⅱ、Ⅲ
2017

YM_13-15
Juggling with Peaches Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
2024
水性樹脂
各50.0×15.0×15.0 cm
協力:ウルトラファクトリー
—
YM_16
排斥と遊戯 ～黄泉平坂～
2024
映像インスタレーション
20分28秒
出演:安田登、金沢霞、渡邊尚　映像:野田亮
—
YM_17
黄泉平坂
2024
発色現像方式印画
95.0×120.0 cm
協力:佐々木慎太郎、雅桃園
—
YM_18
関連スケッチ（5点）
2024
鉛筆、木炭・紙
32.4×42.0 cm（4点）、42.0×32.4 cm（1点）
—

参考展示
作家テキスト
私は18歳のときに神戸を離れ、その後、何度か神戸と出会い直した。「アート・プロジェクトKOBE 2019: TRANS-」から招聘され、一遍上人の入寂の地に近い、兵庫区・中央卸売市場の海上で野外巡礼劇「日輪の翼」（原案・中上健次）を上演。その後、兵庫津にて芸能と宗教を研究するプロジェクト「YUYAKU～踊躍歓喜～」の活動を続けている。
熊野で啓示を得た一遍上人は、遊行する旅僧であり、中上健次の旅物語、語りを傾聴する能楽のワキにもつながっている。
—

参考映像
2024年10月13日に行われた兵庫津での踊り念仏の映像
映像撮影編集：野田 亮
主催：兵庫津ミュージアム
運営：NPO法人DANCE BOX
出演：Jan Mah（音楽監督）、志人（語り部・ラッパー）、辻本 圭（ダンサー）、MECAV（ボールダンサー）、時宗 踊躍念仏僧、踊り念仏衆の会、音遊びの会
照明：藤本陸行（Kinsei R&D）
音響：高田文尋（株式会社ソルサウンドサービス）
舞台監督：黒飛忠紀（幸セ工務店）

國府 理

KO_1
Natural Powered Garden Project
（プランスケッチ）
2006
インク、水彩・紙
25.0×35.2 cm
個人蔵